

飯尾吉勝 いひさし 小説家、評論家。明治二十五年五月二十八日東京神田区末廣町生れ。昭和二十一年五月十八日歿（八十二・九四）。號若翁。本籍は山梨縣南巨摩郡三里村早川。初の同郡下及び甲府で小學校教員をこしてゐたが、小説の志し、若翁子の名で家庭小説『白桔梗』（明治四十五年一月一日三芳屋書店）を出版。その後中村星湖に知られ、澁谷俊の斡旋で長編『没落』を『山梨日日新聞』に發表（大正二年）。大正十一年山梨日日新聞社政治部記者となり、のち國民新聞社に轉じて甲府支局長を務めた。小説、評論多く、昭和に入りて雑誌『中部文學』に「木曾義仲」を書いた。他に『白根の脈膊』（昭和八年五月）、「山梨日日新聞」がある。